

榎本幸人：神戸大学理学部附属臨海実験所

Sachito ENOMOTO: Marine Biological Station, Faculty of Science, Kobe University

昭和38年，神戸大学理学部岩屋臨海実験所は兵庫県淡路町から寄付された土地，建物を基礎に学内措置として発足した。昭和41年4月，官制上正式に神戸大学理学部附属臨海実験所が設置された。その後，教官技官の定員配置増，隣接地の購入などを経て，昭和58年度，建物の全面的な増改築が行われ，現在に至っている。

本実験所は淡路島の北端に位置し，東は大阪湾に，北は明石海峡に面し，西は同海峡を通して播磨灘に続いている。また，南は紀淡海峡，鳴門海峡，紀伊水道に連なる。至近距離に内海，外海とあい異なる海洋環境をあわせ持っている。

敷地は 3,125 m²。建物は二階建。一階は 483 m²，事務室，実習室（定員20名），準備室，講義室（定員24名），飼育室，標本資料室，工作室，外来研究者室，食堂，厨房，浴室，倉庫などがある。二階は 492 m²，研究室，実験室，機器室，測定室，暗室，洗浄室，図書室などの他，宿泊室（和室，6室，定員25名），洗濯室などがある。

実験所周辺の海藻類は近年沿岸埋立工事などのため生育地そのものが減少したが，採集・調査船「おのこ」(全長 15 m，重さ 8.5 t，機関350馬力，巡航速度 20 kt，定員20名)により約 1 時間で西は播磨灘の家島群島，南は紀淡海峡，生石崎，友が島，沼島など海藻類の豊富な生育地に達し，実験研究材料用の海藻の入手は比較的容易である。

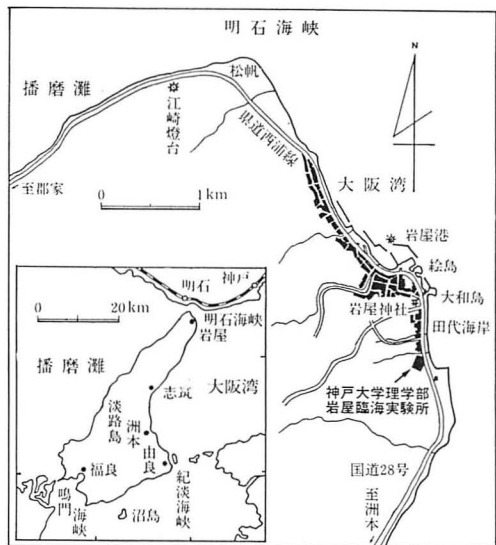
海水汚染の程度は付近に大規模な汚染源がなく，また明石海峡の速い潮流に洗われ，大阪湾阪神沿岸，播磨灘北部臨海工業地帯沿岸と比較して低い。海藻類の飼育培養実験には実験所前の海岸からポンプアップ，実験室に給水する海水で特に支障はない。

海藻関係の学生実習に必要な一般的な機器類はほぼ完備されている。この他，藻類の分類，形態，培養に関する基本的な一通りの研究機器は整備されている。

本実験所は神戸大学の生物学，海洋科学関係の教官学生による研究，教育，実習に常時利用されているが，他大学の臨海実習はもとより他大学教官学生による研究，実習にも施設利用の便宜を計っている。また岡山，島根，神戸の三大学間の単位互換制度による臨



第1図 実験所全景



第2図 実験所所在地概略図



第3図 採集・調査船

海実習，全国国立大学理学部生物学科学生を対象とした公開臨海実習を開講している。

実験所への順路は，JR 山陽線明石駅下車，或いは山陽新幹線西明石駅で JR 山陽線に乗り換え，明石駅下車。南に約 500 m，明石港，播淡汽船の棧橋に至る。明石港より対岸の岩屋港まで海上約25分で淡路島に渡る。連絡船は05：00—21：30の間，30分間隔で運

行されている。岩屋港棧橋より国道28号線を南に徒歩約10分，或いはタクシー約5分で実験所に至る。

食事は10名以上利用の場合希望により用意する。少人数の場合は厨房で自炊。

実験所，採集調査船利用希望者は神戸大学理学部臨海実験所長宛（〒656-24 兵庫県津名郡淡路町岩屋，電話0799-72-2374）申し込む。